



東海道の今と昔

富士から東京や大阪に行くには、東名高速道路、国道1号線、東海道本線また新幹線などたくさんあります。その中で一番速い新幹線ひかり号では、東京から大阪まで3時間でいくことができます。

鎌倉時代は歩いたり、富士川を船で渡ったりしながらいく日もいく日も旅をしました。

源頼朝は、神奈川県鎌倉で政治を行っていましたから、自分の命令を早くみんなに伝えられるよう、また年貢や市場の品物を早く納められる

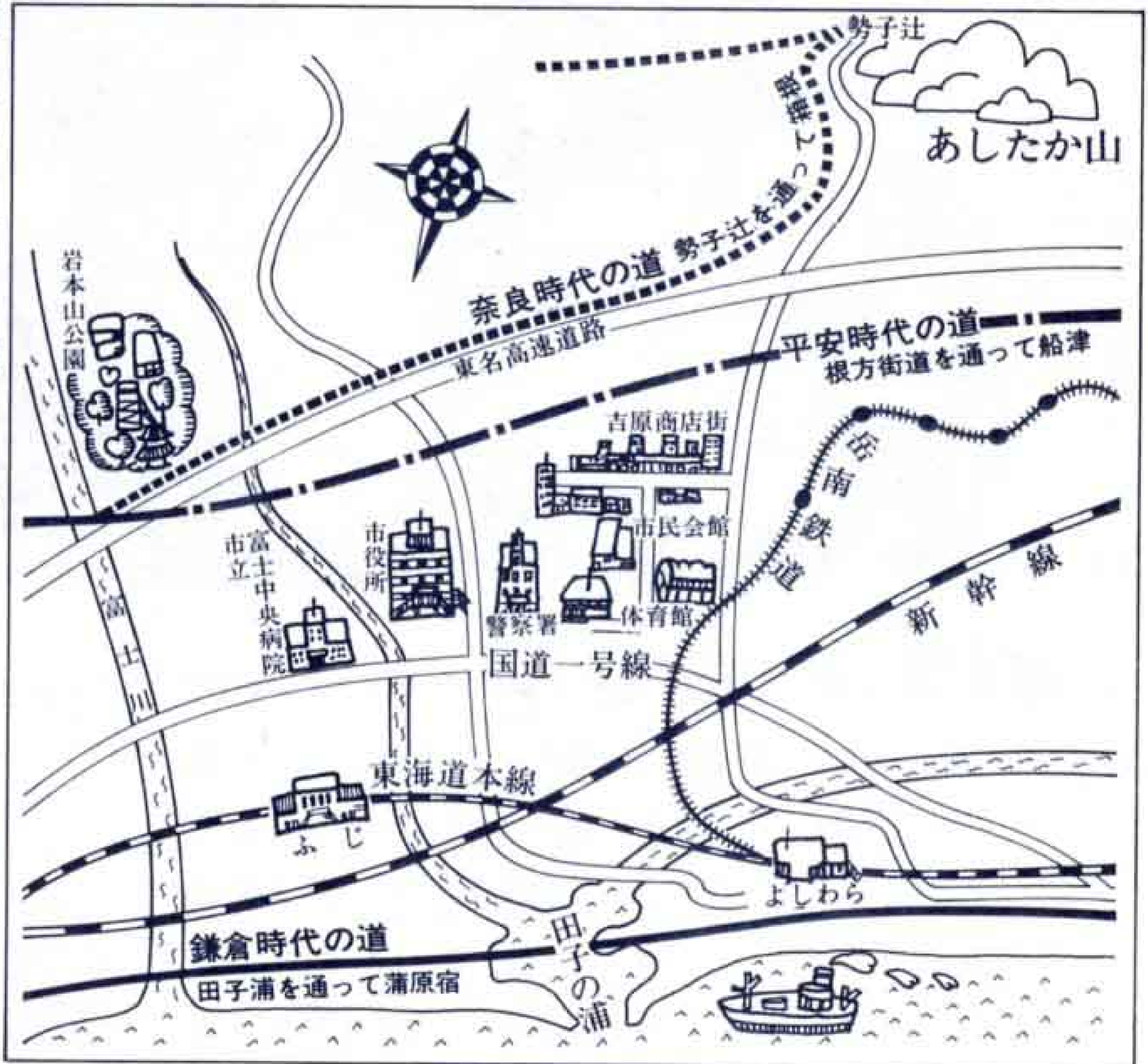
よう、新しく道をつくりました。

そのころ、富士川は今よりずっと東を流れていましたし、浮島沼も大きな沼だったので、それをさけて、海

に近い方に道をつくったようです。田子の浦港東側には、旅人のとりしまりや無事に旅ができるように「見付(みつけ)」をつくりました。

市場があちこちにでき商工業が発達して、鎌倉と京都のゆききが

盛んになると、人々は熊野や伊勢神宮におまいりに出かけました。そして道もだんだんよくなって宿場が発達していきました。



345チームが参加した砂の造形大会

砂の造形大会を6月15日、元吉原海岸で行いました。この大会も今年で4回目となり、参加チームも年ごとに増え、今回は各小学校区から345チーム、5429人にもなりました。

砂浜につくられた作業場では

みんな思い思いの作品をいっしょうけんめいにつくりました。できあがった作品はカメ、ワニ、ウマなどの動物や、東名富士インターチェンジ、市長さんの顔などもあり、どれも立派なできばえでした。

決まりを守って楽しく泳ごう

みんな市民プールへ泳ぎに行ったら、プールの決まりを守ってください。昨年もプールの回りを飛び回って、ころんでケガをした子が大勢いました。せっかく楽しく泳ごうと思ってもケガをしてはつまらないからね。

